

男女共同参画に関する「身近なテーマ」について話しあうコーナーです。

【出席者】 増田啓子さん
岡本精文さん
大間栄美さん

◆テーマ

「生きがいのある暮らし」 どう心がけてますか？



◆仕事が生きがい？

岡本 私のような高度成長期に働いてきた多くの男性は、仕事で成功して高収入を得ることが生きがいでした。それが家族の幸せに結びつくと思っていたし、そのために家庭が犠牲になるのはある程度仕方ないことだと思っていました。

大間 営業マンだった私の父も仕事ひと筋の人間で、夜遅くまで働いていました。ただ、父の場合、本当にその仕事が好きで、夢を持っていきいきと働いていたと思います。定年後も再就職し、営業の仕事続け、生涯現場で働いていました。



増田啓子さん
生きがいの人もそれぞれ、色々あっていいのでは

増田 生きがって、世代や人によってそれぞれ違うと思うのです。三世代が同居する我が家では、子どもが生きがかったり、家族団らんが生きがかったり、趣味が生きがかったり、まさに色々です。

岡本 価値観や生き方が多様化している今、むしろ仕事だけが生きがいという若者は減っているのではないのでしょうか。

増田 そうかもしれません。長男の場合、子どもの頃から好きだった野球への夢があきらめきれず、社会人野球という道も視野に入れながら就職活動していました。両立は大変だと思うので



岡本精文さん
定年後のいまは母の介護が私の生きがいです

すが、それが本人の夢なら応援してあげたいと思います。

◆夢や好奇心を育てよう

大間 私は夢に向かって努力できる人生ほど、幸せなことはないと思うのです。しかし、今の時代、何でもすぐに手に入るの、簡単に夢をあきらめてしまう若者も多いのではないのでしょうか。

岡本 満たされて育っているから、生きがいを見つけるのが難しくなっているのではないのでしょうか。

大間 私は子どもには常に「足りない人生」のほうが良いと思っています。そのほうが好奇心が育つし、工夫しようとするし、結果的に得るものがたくさんあると思うのです。冬休みに九州まで、親子で旅をしました。節約を兼ねて、電車を乗り継いで行ったので、色々な人と出会い、たくさん思い出をつくることができました。

◆それぞれの生きがい探し

岡本 私は製薬会社に勤めていたのですが、製造現場で新しい薬ができあがっていくのを見て、はじめて自分が社会の役に立っていることを実感しました。以来、仕事で達成感を得られるたびに、生きがいを感じてきました。定年後の今は、母の介護が私の生きがい

です。今の母は私がいなければ、生きていけません。介護は確かに辛いことのほうが多いのですが、自分が必要とされていると感じたとき、辛い中でも生きがいを見出せるものですね。

増田 私は小学生のとき、先生に作文が上手だねってほめられたことがきっかけで、趣味で文章を書き続けています。人との出会いや家族から分けてもらった日々の感動を文章にすることが何よりの生きがいです。

岡本 家族が幸せになるためには、お母さんも生きがいを持っていることが大事だと思います。

大間 子どものときの経験って、大事ですね。小学生の時に、自分が書いた冒険物語をクラスの皆が読んでくれて、自分の作品によって人の心が潤うという体験をしました。以来、人に生きる喜びや感動を与える仕事がしたいと思い、映像の制作や広告のキャッチコピーを書くことを仕事にしています。私の生きがいはもちろんこの仕事です。子育てしながら、女性にはなかなか厳しい世界ですが、父のように生涯現役で働き続けていきたいですね。

岡本 ライフステージによって生きがいは変わるものです。その時々で家族がお互いの生きがいを尊重しあっていくことが大切だと思います。



大間栄美さん
生きがいの持てる仕事に出会えた私は幸せです

◆若年者の就職対策 ～キャリアカウンセリングやセミナーなどを開催（34才まで）

施設名	住所	電話番号
ヤングキャリアセンター埼玉	大宮区桜木町1-9-4 エクセレント大宮ビル6階	650-0000

◆高齢者の就労相談 ～さいたま市と職業安定所が協力して求人や求職を紹介

施設名	住所	電話番号
浦和高年齢者職業相談室	南区南浦和3-46-16 浦和シルバーワークプラザ内	884-5511
岩槻高年齢者職業相談室	岩槻区本町3-1-1 ワッツ西館2階	758-0150

◆女性のための窓口 ～働く女性や再就職したい女性を支援

施設名	住所	電話番号
(財)21世紀職業財団 埼玉事務所	浦和区仲町1-4-10 浦和商工ビル6階	824-7001

◆起業したい人の支援 ～創業を目指す人や中小企業者を支援

施設名	住所	電話番号
(財)さいたま市産業創造財団	中央区下落合5-4-3 さいたま市産業文化センター4階	851-6652
埼玉県創業・ベンチャー支援センター	中央区新都心1-5 産学交流プラザ 彩の国8番館2F	601-2345

言葉による暴力

ドメスティック・バイオレンス(DV)とは、配偶者や恋人など、親密な関係にあるパートナーからふるわれる暴力のことをいいます

Column

◆誰のおかげで食えるんだ……これもDV？

ある夫婦のケースです。

退職してからというもの、夫はお酒を飲むたびに、必ず妻に向かって大声でどなります。

「子どもが成人したから、俺の役目は終わった。今まで俺の稼いだお金で食べさせてやってきたじゃないか。もう生活費は入れない。お前も働いて暮らせ！これから俺は自分の好きなことをやりたい。いやなら出て行ってもかまわない。だけど、金はやらん！」

DVの被害というと、命を脅かす「身体的な暴力」が最も深刻なものと思われがちです。しかし、上のケースのように、大声でどなる、「誰のおかげで食えるんだ」「役立たず」「俺の言うとおりにしろ」などと言うこと、また、生活費を渡さないなど、相手に精神的、経済的苦痛を与え、相手の心を深く傷つけることも暴力なのです。

信頼しあえるはずの夫から、このようにひどいことを言われ続けると、その苦痛ははかり知れません。こうした状態が続くと、次第に生きる気力がなくなり、うつ症状がでたり、時には自殺に至ることもあります。

◆なぜ、長年連れ添った夫婦間で暴力が……

DVは社会的・経済的に優位な立場にある男性が、暴力を用いて女性を思い通りに支配しようとして起こるものと言われています。特に子どもの独立や夫の定年退職など、あらたに夫婦二人きりの生活がスタートしたときに、男性側に相手を支配してもいいと思う心理がより強く働くからとされています。

長年連れ添った夫婦でも、暴力は決して許されません。夫婦間の暴力をなくしていくには、お互いを対等なパートナーとして認めあい、相手の人格を尊重しあえる関係を築いていくことが何より大切です。

精神的・経済的暴力

- 大声でどなる
- 何を言っても無視する
- 人前でバカにしたり、ののしったりする
- 大切にしているものを壊したり捨てたりする
- 外出を制限したり、行動を細かく監視する
- 外で働くなと言ったり、仕事をやめさせたりする…など

一人でも悩まずに相談してください

●パートナーシップさいたま
女性の悩み電話相談 TEL/643-5813
【月～金】10:00～20:00 【土日祝】10:00～16:00